

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

# GUNDAM MS Bible

The OFFICIAL

Mobile  
Suit

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

RX-78GP03 / ガンダム試作3号機  
デンドロビウム



31

2019.12.10 12.17 合併号

## ガンダム試作3号機 デンドロビウム

GUNDAM GP03 ENDROBIUM



Total Height : 35.5m  
Weight : 226.4t  
Total Weight : 453.1t  
Material : Luna Titanium Alloy  
Generator Output : 35,900kW  
Thrusters Total Propulsion : 2,265,000kg

敵味方の策謀が渦巻く戦乱の宇宙を駆け抜けた“わがままな美女”



DeAGOSTINI







## GUNDAM GP03 DENDROBIUM

## ガンダム試作3号機 デンドロビウム

AE（アナハイム・エレクトロニクス）社主導による「GP計画」から誕生した大型MA。  
 管制用MS（ステイメン）を武器庫となるアームドベース（オーキス）にドッキングさせ、  
 当時の機動兵器としては破格のサイズと攻撃／防御／機動性を獲得した。  
 その反面、機体性能を最大限に引き出すにはパイロットに過度の負担を要求するため、  
 優れた拠点防衛用MAではあるものの、運用面ではいくつかの問題を抱えている。



全高	38.5m
本体重量	226.4t
全機重量	453.1t
主エンジン	ルナ・チタニウム合金
主エンジン出力	38,800kW
主エンジン出力	2,265,000kg
主エンジン出力	—
主エンジン出力	—
主エンジン出力	メガ・ビーム砲X1
主エンジン出力	マイクロ・ミサイル・コンテナX2
主エンジン出力	大型集束ミサイル・セットX2
主エンジン出力	爆弾庫X2
主エンジン出力	大型ヒーム・サーベルX2
主エンジン出力	（フォールド）ジェネレーターX1 他
主エンジン出力	コウ・ウラキ 他

GUNDAM  
MS Bible 31

## CONTENTS

■ 戦場レポート 戦士たちの邂逅	01	■ MS戦記 ガンダム試作3号機 戦時の記録	16
■ MS機体解析 機体解説 武装解説	05 10	■ MS進化論 ガンダム試作3号機 開発系図	18
■ 関連MSラインナップ ガンダム試作3号機と関連機体	12	■ メカニック・ジャーナル ミサイル コロニー落とし	24 30
■ MSパイロット コウ・ウラキと周辺人物	14	■ ガンブラ ジェネレーション 存在感を追求したビッグサイズに注目!	34













『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』第12話「強襲、阻止限界点より」

# 戦士たちの激突

## 運用MS 地球連邦軍／アルビオン隊

ガンダム試作2号機強奪に直面したアルビオン隊は、それ以降、機体奪還のために追撃戦を遂行。一時的に任を解かれたことはあったものの、独自の判断で追撃を続行した。その途中、ドック艦ラビアンローズからガンダム試作3号機を覚悟している。

ALBION  
アルビオン



RGM-79N GM CUSTOM  
ジム・カスタム



HGC-83  
GM CANNON II  
ジム・キャノンII



RX-78GP03 GUNDAM GP

0ENDROBIUM

ガンダム試作3号機デンドロビ「GP計画」の一環で誕生した。基幹部機あらゆる能力が現時代機を凌駕

RX-78GP03S  
GUNDAM GP03S STAMEN  
ガンダム試作3号機ステイメン



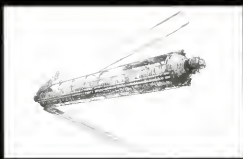


デラズ・フリートによる地球連邦軍艦艇襲撃は、それに続く作戦への単なる序章に過ぎなかった。彼らの真意はコロニー落とし——アースノイドと地球連邦政府/連邦軍に対する大規模テロリズムだったのだ。コロニー公社から強奪されたスペース・コロニーは着実に地球に接近しつつあり、阻止限界点を突破すれば、いかなる手段をもってしてもスペース・コロニーの落下は止められなくなってしまう。この危機的局面において、連邦軍本隊とは別にデラズ・フリートを追撃していたアルビオン隊は、友軍の援護も望めないままに、絶望的な戦いに身を投じるのだった。

## 戦闘宙域

デラズ・フリートがコロニー落としに使ったのは、「コロニー再生計画」の一環で新たに建造されたスペース・コロニーだった。まずシーマ艦隊が、コロニー公社から2基のスペース・コロニーを強奪。うち1基を月への落下軌道に入ったように見せかけ、月近傍宙域で激しい軌道変更を実施した。この策略によって追撃担当の連邦軍艦隊は次々と推進剤切れを起こし、事態に対処できるのはアルビオン1隻という有様だった。

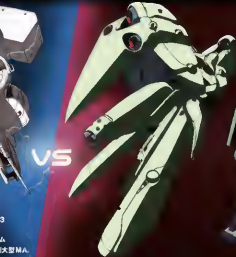
実は一帯の連邦軍高官はシーマ・ガラハウと密約を結んでおり、密約に拘束されたアルビオン隊の機体、スペース・コロニー破壊のための計略が進行していたのだ。



■地球落下軌道に置かれたスペース・コロニー「アイランド・イズ」

## 運用MS デラズ・フリート

スペースノイドの地位拡大を目指して夢見た旧ジオ公国軍残党。保有するのは旧式兵器とはいえず、指揮官エギーユ・デラーズを中心に人員の士気は高い。ただしなかには私欲から組織を利用しようとするシマのような者もいる。



AMA-X2 NEUE ZIEL  
ノイエ・ジール

アクシス先遣団員から託された大型MA。  
コンピュータ制御による有軌道攻撃能力を有する。



MS-06F-2  
ZAKU II F2  
ザク II F2型



MS-09R-2  
RICK-DO M ZWEI  
リック・ドム II



MS-21C  
DRA-C  
ドラッグエ



MUSAI  
ムサイ 新機体開発機

## HISTORY TIMELINE 一 戦前の展開 一

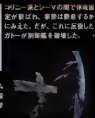
### ■機動圏を越える宇宙

アルビオン隊の襲撃空し、スペース・コロニーは阻止限界点を通過。だがこれは仕組まれたシナリオだった。連邦軍コロニー派がソーラ・システムIIを設置し、スペース・コロニー破壊の準備を整えていたのだ。しかしデラズに忠誠を誓うアナベル・ガトーの行動が事態を混乱へと引きこむ。

地球軌道上に出現したソーラ・システムII。一瞬戦争での両システムの改良型で、機動圏を越えた反面、専用制動機が必要となった。



制動系を失ったソーラ・システムIIは本来の能力を顕微鏡で、接近するスペース・コロニーの攻撃を受けて破壊されている。



コロニー落としとシーマの機体破壊が目標。事態は悪化するかに見えた。だが、これに反撃したガトーが制動機を破壊した。

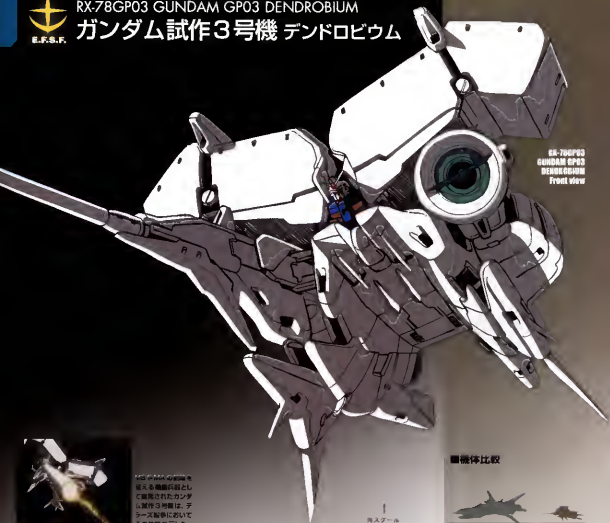


# MS 機体解析



RX-78GP03 GUNDAM GP03 DENDROBIUM

ガンダム試作3号機 デンドロビウム



RX-78GP03  
GUNDAM GP03  
DENDROBIUM  
Front view



MSとMAの両方を  
超える機動兵器として  
開発されたガンダム  
試作3号機は、テ  
ラー戦争において  
その性能を示した。

1  
実スケール  
パイロットとの対比。

## 「機動兵器を至上命題に掲げて ガンダム開発計画」が生んだ異形の機体

地球連邦軍の「ガンダム開発計画」は、最強の機動兵器を開発するという命題の下、まったく異なるコンセプトに基づく複数のプランが並行して進んだ。それらの試作機——GPシリーズのなかでもひととき異彩を放った機体が、RX-78GP03 ガンダム試作3号機である。「デンドロビウム」のコードネームを持つ本機は、RX-78GP03S ガンダム試作3号機ステイメンがアームドベース・オーキスとドッキングすることで完成する巨大な

機動兵器で、MSとMAの特性を併せ持っている。拠点防衛・攻略を想定した戦術兵器としての性格が強く、最強の機動兵器というコンセプトを対多数の戦力に求めた機体だったといえる。開発は他のGPシリーズと同じくAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が担当し、フォン・ブラウン市のリバモア「工場」でU.C.0083.10.04にロールアウトしたのち、同社のドック艦ラビアンローズにおいてテストが行われていた。

### ■機体比較



ALBION  
305m



RX-78GP03  
GUNDAM GP03  
DENDROBIUM  
140m

前後に長くやや扁平な機体でありながら、全高が一般的なMSの倍近くに達することからも、その巨大さが窺い知れる。ジオン公団のMAの設計思想を振り入れた機体だが、そのフォルムはまったく異質なものとなっている。



ガンダム試作2号機  
遠征任務を遂げたアル  
ビオン艦にイレギュ  
ラー降参として異動  
投入され、勢力の中  
核を担って大きな戦  
果を挙げた。



# MS 機体解析 機体解説

## 巨大機動兵器を構成するアームドベースとその運用目的に沿って与えられた機能

ガンダム試作3号機の機能の大半は、アームドベース・オーキス(以下「オーキス」)が担っている。オーキスはMAに近い人型機動ユニットであり、ステイメンを管制ユニットとして組み込むことで、はじめて兵器としての真価を発揮する。そのコンセプトの源流はRX-78 ガンダムとGパーツの連携運用にあるといわれ、支援メカによるMSの強化という運用思想を本機はMSとMAの融合に発展させたのである。なお、デンドロビウムという本機のコードネームは蘭科の花に由来し、オーキスも蘭を意味している。

### ■機体構造

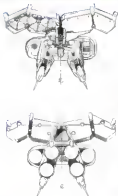
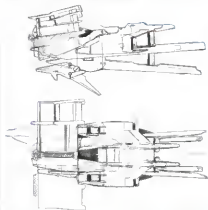
本機の大部分をなすオーキスは、メイン・ジェネレーターとスラスター、推進剤タンクで構成された本体に、ウェポン・コンテナをはじめとする各種装備が連結した構造となっている。また、機体後部に配された6基のスラスターは1基につき377,500kgもの推力を有しており、その巨体からは想像できない機動性を発揮した。



オーキス駆動などに必要となるバーニアを備え、メインスラスターの推力にそれらを添えて制動機動を行った。



装甲にはルナ・チタニウム合金を採用しているが、1フィールド당ビームの衝撃に耐えるほどの強度はない。



機体上端はウェポン・コンテナで占められている。それ以外は大型ブースターとプロペラント・タンクで構成される。メガ・ビーム砲を収めた全長は140mにも達する。



RX-78GP03  
GUNDAM GP03  
DEKOROBUM  
Rear view



## TECHNOLOGY INFO

### ■トライアル中の襲撃

本機のトライアルはAE社のドック艦バリアンローズで実施されたが、情報を入手したデラズ・フリートの襲撃を受けたといわれている。本機の活躍によって撃退には成功したが、その戦線でテストパイロットが死亡した。



ステイメン機動でのトライアル中に襲撃を受け、激戦を脱出したオーキスとドッキングして脱MS部隊と交戦したという。



この時点のステイメンは「PSベック」と呼ばれるコア・ブロックは備えなかったとされる。



18歳からなるMS部隊をわずかな機動で駆逐し、異次元戦闘兵器としての任務的な性能を示すこととなった。

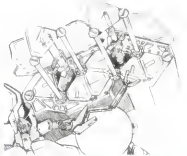


## ■ウェポン・コンテナ

オーキス上部の左右に連結されるウェポン・コンテナは、各種兵装を搭載する武器庫にあたる機構である。1基につき8つのミサイル・ヘイ（サイロ）を備え、それぞれ異なる兵装を収納できる。また、コンテナ前面は開閉式のハッチで覆われている。



兵装の補充はウェポン・コンテナごと交換することで行われる。コンテナははたつのブロックに分體も可能



上はウェポン・コンテナの開放状態。ステイメン側の兵装を取り出す際には2本のシャフトが伸びてミサイル・ヘイが移動する

## ■コクピット

本機の後部は、ノッキングしたステイメンのコクピットから行われる。当時としては珍しい全天候型モニターとリニア・シートを備える球形コクピットを採用していたが、複雑な火器管制システムによるパイロットへの負担は通常のMSの比ではなかったとされる。



通常のコクピット両側に壁がある設計だが、各種コントロールの小型化が行われていないため、両側面も広い。



左右はコクピットの内部構造。上下を通過のリング状コントロールにはRL-78NT-1のリンクスとの共通部が見られる



座席系は従来のものと異なり、通常の型とは異なる。座席系を行うには不足もあり、その結果がパイロットに及ぼった

## ■大型クロー・アーム

オーキス下部の左右には展開式のクロー・アームが配されている。クロー・アームには数ヶ所の関節による柔軟な可動構造を有し、大型ヒーム・サーベル（後述）の運用と格闘戦が可能。また、クローの接触面にはサーベルを固定する起倒式の小さな爪が配されていた。

クロー・アームは格闘戦を想定して設計された。平時は折り畳まれていたが、AMBAC作戦では展開しない



右はクロー・アームの展開状態。通常は機体全体が連結してカバードされるが、展開時には大きく伸縮する



## ■フィールド・ジェネレーター

オーキス前部右側面に備えるフィールド・ジェネレーターは、ビーム（メカ粒子）を発生・昇進する防衛装置である。小型化が難しく、稼働には膨大なエネルギーを要する装置だが、本機は38,900kWものジェネレーター出力によって実戦での運用を実現した。



大出力のメカ粒子発生も完全に昇進化する性能を発揮し、本機の全体をこのヒームで覆うことができた



右はフィールド・ジェネレーターの前面。稼働時には前面のシャッターがカメラの取り回しのように動く

## ■ドッキング・システム

ステイメンはオーキスの前部中央に下半身を埋めるようにノッキングし、本機の中核として機能する。ドッキング時にはステイメンのテール・バインダー・カノク機構の役割を果たし、上半身はある程度の可動が保たれた状態となっている。



ステイメンの分體・ドッキング時には、下部のようにクロー・アームが展開する



ステイメンが飛行機翼を用いる場合、ウイング・コンテナ下部のハッチが開いて可動が確保される



ドッキング中のステイメンの下半身。足部の関節部がバインダーで固定されている



ステイメン  
オーキス



右のウェポン・コンテナとクロー・アーム、フィールド・ジェネレーターを喪失した状態



あまりに巨大でアルビオン・コロニーに収容できず、マグネット・アンカーで艦内に固定された



機体外部も艦の外で行われ、パイロットのクワ・ウラキは片時もコクピットを離れることができなかった



AMA-X2のフィールド・ジェネレーターとの交戦で大きな損害を受けた。右上の図面はその損傷状態を示している



# MS 機体解析



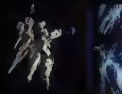
## RX-78GP03S GUNDAM GP03S STAMEN ガンダム試作3号機 スティメン

### ガンダム試作3号機の システムの中核を担う ガンダムタイプMS

アームドベース・オーキスとドッキングすることでガンダム試作3号機の管制ユニットとなるMSが、このRX-78GP03S ガンダム試作3号機スティメン(以下「スティメン」)である。コードネームの「スティメン」はおしべを意味し、アンドロビウムの中核となる本機役割を象徴している。その誕生は、MAのコンセプトを採り入れたガンダム試作3号機の欠点——対MS近接戦闘の脆さ——を補うために、MSをそのシステムに組み込むという発想に基づいており、オーキスとの連携を前提とした設計がなされている。しかしながら、MS単体として見ても極めて高性能で、宇宙空間での運用を優先した仕様を与えられたことからRX-78GP01-Fb ガンダム試作1号機フルバーニアに匹敵する機動性を誇った。だが、その本領はあくまでガンダム試作3号機の管制中核としての性能にあったといえる。



ガンダム試作3号機の計画段階を受けてラビアンローズで開発されていたが、急遽を断じたアルビオンに譲渡される。



ガンダム試作3号機は運用寿命の短縮で大幅に改良したが、スティメンは無限で増殖可能なシステムとしての価値を重んじた。

#### ■機体比較

RX-78GP01-Fb GUNDAM GP01 Fb 16.5m	RX-78GP03S GUNDAM GP03 STAMEN 16.0m	MS-14F BELGOS M 19.2m

バックパックやテール・バインダーに独特の構造が施されるが、全体としては通常のガンダムタイプMSとほぼ変わらない外観を有する。機体サイズも16m級と通常のMSとしては標準的で、システムの一部という特徴を反映して機体は汎用MSに近い。



RX-78GP03S  
GUNDAM GP03S  
STAMEN  
Front view

#### SPEC

全高	1.0m	本体重量	1410t	全機重量	
標準材質	ルナ・セラニウム合金				
シェネレーター出力	2,000kW				
スラスター駆動力	186,000kg (40,000kg × 2)				
武装	ビーム・サーベル×2、ビーム・ライフル×2				
オプション	グ・バズーカ×2、ハイパー・バズーカ×2				



コックピットはハイロケットを備えたため、トリアールはAE社デストロイロケット・デフラ・カーが搭載したという



# MS 機体解析 機体解説

## ガンダム試作3号機を構成するための 独特の構造と高性能MSとしての側面

ガンダム試作3号機のシステムの一部として設計されたスティメンは、その運用に最適化された機体構造を特徴とする。複雑な機体制御を助ける球形コクピットや、オーキスとのト・キンダに用いられるテール・バインダー、ト・キンダ時の兵装運用を考慮した腕部構造などがそれにある。また、本機自体がガンダム試作3号機の脱出システムとして機能するか、一説にはコア・ブロックシステムの導入も噂されていたとされる。しかし、結果的にその作機を投入したPスベークモデルではなく、球形コクピットが採用されている。



RX-78GP03S  
GUNDAM GP03S  
STAMEN  
Rear view

### ■頭部

頭部はガンダムタイプMSの特徴を有する一方で、ハルカン砲を省略した構造や左側頭部のアンテナなどの独自設計が見られる。また本機には教育型コンピュータが搭載されており、各種情報を格納するセパレートモニターと連係して機体制御を補助した。



ユニット側面とひき  
き合分の長いライン  
が特徴で、ガンダム  
試作3号機のセンサー  
機構を持った。



左側頭部の2本のアン  
テナはそれぞれ機体が  
異なる。頭部側面図の  
円形部分はサ・セン  
サーとされる。

### ■胴体

本機には前述のように球形コクピットとコア・ブロックの2種類の仕様がおり、仕様変更には胴体ブロックごと交換が必要だったとされる。外装はその未だ未だ流通してきたが、それぞれの仕様の互換性は低く、性能への影響も大きかったといわれている。



バックパックは左右に独立したスラスター  
ユニットを備える構造で、駆動式のビーム・  
サーベル・ラングを備えている。



胴体中央の赤い部  
分がコクピットの外  
部ハッチで、構造は  
この機体の性格で決  
まっていたといわれる。

### ■テール・バインダー

機体後面のテール・バインダーはト・キンダ時のロケット機関となる。また、可動構造を有した推進器でもあり、AMBAC肢として機能することで高い機動性を発現した。このテール・バインダーや機体各部の姿勢制御用バニアにより、本機は180度姿勢変換をフルバニアと同等の0.8秒で行うことができた。



バックパックなどを  
含む背中の推進力は機  
体の主力M格の3割  
近くで、優れた機動  
性を特徴としている。



テール・バインダー  
と取り付け基部の構造  
は、機体時の上  
部には小型の可動バ  
ニアを備える。

### ■腕部

腕部には、フォールディング・アームと呼ばれる前腕部の折り畳み構造が搭載された。ト・キンダ時にウェポン・コンテナからスティメン用の機体兵装を取り出す際に用いられる。右がその展開構造で、前腕部が割れてアームが伸び、先端のクローが機能する。



展開時のフォールディング・アーム  
前腕部外装の台形の区画は多目的ラ  
ンダとなっている。

オーキスから分離した  
直後のスティメン  
テール・バインダー  
がロック機構のため  
外側に倒れている。

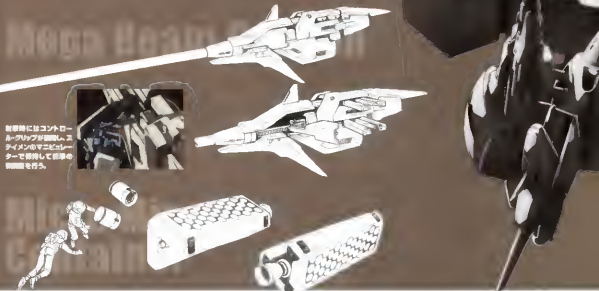




# MS 機体解析 武装解説

## ステイメンとオーキスの双方で運用される 多彩かつ強力なガンダム試作3号機の兵装群

ガンダム試作3号機は単独での拠点防衛・攻略を視野に入れ、火力に優れる多彩な兵装を装備している。ただし、多くのMAのように固定兵装を主とするのではなく、搭載兵装の換装が容易なウェポン・コンテナを活用することで、多様な戦況に対応できる性能を獲得していた。また、ウェポン・コンテナにはステイメン用の機行兵装も搭載でき、それらを用いた接近戦も可能だった。これにはMAの欠点であるMSとの接近戦の不利を補うという側面もあり、本機はそうした仕様によって局地戦専用機の性質が強いMAの枠を超える戦闘能力を発揮したのである。



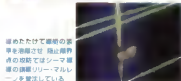
射撃時にはコントロール・リウブが制御し、ステイメンのマニピュレーターで操作して目標の位置を行う。

### ■メガ・ビーム砲

ガンダム試作3号機の主砲にあたる大型ビーム大砲で、オーキスの左前方に搭載される。約90m・70mともいわれる全長を誇る長距離のビーム砲であり、その威力は当時の標準的な砲撃能力の主砲を凌駕したといわれる。砲身はMSの宙空にも耐えるほどの強度を有し、AGX-04 カー・ヘラ・テトラが先頭に牽引しても、その重量で脚部が壊れ落ちるほどの勢いだった。発射に支障はなかった。



メガ・ビーム砲は砲大威力を誇る本機の代表的兵器で、わずか4か所を命中させれば倒壊させられることができた。



砲めためたての砲身の基部を砲撃させ、砲撃の際の反動でシアー機構の調整（リリー・マッセル）を発生している。

### ■マイクロ・ミサイル・コンテナ

ウェポン・コンテナのミサイル・レイ・サイロに収納されるミサイル・ユニットで、通常は2基が並列される。三角柱状の自律式コンテナの3面に36発ずつ、計108発の小型ミサイルを備え、射出されたコンテナから広範囲にミサイルをばら撒く。ミサイルは一発でもMSを撃破できる威力を有し、極めて高い制圧力を発揮した。また、これとは異なる構造のマイクロ・ミサイル・ユニットも存在したといわれる。



100発以上のミサイルで広い範囲に砲撃を集中させ、敵MSを倒壊させ、倒壊する威力を発揮した。



射出方向とは逆方向にミサイルを発射するマイクロ・ミサイル・コンテナのバリエーションもあったという。

### ■大型集束ミサイル・セット

3発の大型ミサイルがコンポーネントされたユニット（「大型集束ミサイル」と呼ばれる場合もある）。通常はミサイル・レイに2基を装備する。後部の連射コンテナには3基のフラスターを備え、フラスターとして機能する。そのため、通常のミサイルよりも速度と射撃距離に優れていた。遠距離の対艦、対大型目標などを想定していたと考えられ、動きの少ない目標に用いられるケースが見られた。



ミサイル・レイからコンテナごと射出されたのち、3基の大型ミサイルが分離して目標へと向かう。



連射兵器が連射するミサイルとしては非常に大砲で、射撃の際でMSの砲撃が弾け落ちたの砲撃を撃っていた。



行機体のガンダム試作3号機。機体にはミサイル・ベンを搭載するとともにクロー・アームを装備。さらにステイメン自身も射撃両面を担うことで火力増強が可能となる。



機体内部として収納可能な状態。これはグイヤーの機体で、本体の機体で収納された状態を再現する。

## ■大型クロー・アーム

### 大型ビーム・サーベル

オーニス下部には2基の大型クロー・アームを備え、先端の「本爪」のクローはMSサイズの対象を握ることが可能。また、爪の間には大型ビーム・サーベルが収納されており、左右1基ずつクローで保持して格闘戦を行うことができた。なお、ステイメンも通常のヒム・サヘル2基を装備しているが、こちらはクロー状態で使用されるケースはなかなか見られる。



大型ビーム・サーベルを用いてAMAX-2型ビーム・サーベルを演じた。



## ■ビーム・ライフル

ステイメン用の機体長は、通常は1基をミサイル・ベインに格納している。本機に採用されたのはRX-78GP01ガンダム試作1号機と同型（BOWA XBR-M-82A1）とされる。Eバック方式の連射と防弾用ビーム・サーベル・シールドの装備が特徴。使用する際にはステイメンのマニピュレーターで保持し、近～中距離の対MS戦闘に高い効果が見られた。なお、本機専用のヒム・ライフルも開発されていたといわれる。



## ■フォールディング・バズーカ

本機の仕様に合わせて開発された専用の機体長は、ミサイル・ベインへの収納を考慮して砲身を折り畳める構造が特徴となっている。砲身を展開した状態は一般的な同種兵器よりも長大で、後部のマガジンには6発のロケット弾が装備される。家室内の1発を加えて総弾数は7発。ヒム・ライフルと同じくステイメンのマニピュレーターで保持して用いられ、対MS戦闘や制ヒム性能を有する敵機に耐えて使用された。



## ■フォールディング・シールド

### ハイパー・バズーカ

フォールディング・シールドはステイメン用の防衛装備で、サイロへの収納時には中受から縦方向に折り畳まれる（通常は1基を装備）。また、基面にはヒム・ウイフルのEハ・ク4基を装備可能だったとされる。ハイパー・バズーカは当時の標準的な実体弾条機行兵器で、折り畳み機構は持たないがそのままサイロに収納できた。ただし、実戦での使用は確認されていない。





# 関連MS ラインナップ

# RX-78GP03

## GUNDAM GP03 ガンダム試作3号機

AE社が  
独自に  
開発した  
トライアル機



■RX-78GP00 ガンダム試作0号機

『ガンダム実用計画』が本格始動する以前、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社が軍部の認可を受ける前に独自開発した試作機で、コードネームは「プロセッサ」。

GPシリーズの共通フレームを基盤とするもののAE社側のアイデアが色濃く反映された結果、特徴的なシルエットを獲得した。とくに背部のドラム式フレームは様々な武器や装備を懸架でき、GPシリーズに属するほかの機体には見られない独自機構となっている。

白いMSの  
後継として  
開発された  
試作機



■RX-78GP01 ガンダム試作1号機

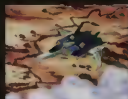
GPシリーズの1番機にあたるMSで、コードネームは「ゼフィランサス」。一年戦争で実質的な成果を挙げたRX-78ガンダムの後継機として設計され、人型汎用兵器としての能力を徹頭まで実を認めることをコンセプトとしている。その一環として導入された新たなフレーム構造はMSの挙動を人体のそれに近づけることに成功。この構造がのちにムーバブル・フレームへと発展し、以後のMS開発の礎となったとされる。

核弾頭の  
運用を  
想定した  
特殊MS



■RX-78GP02A ガンダム試作2号機

「サイザリス」というコードネームを与えられた本機は、核弾頭を使用した拠点攻撃を目的に開発された。両肩のフレキシブル・スラスター・バインダーが生み出す高加速力で取組目標に接近。シールド翼とバックパックに分類して搭載されたアトミック・バズーカで標的を破壊後、迅速に撤退するというのが基本動作である。そのため敵や同盟軍、敵対線からパイロットを保護する必要があり、コックピットは特殊な耐圧構造となっている。



多目的小型汎用機  
（コア・ブースター）  
を内蔵する  
機構を採用。この  
機構はガンダム  
試作1号機やフル  
バーニオンに継承  
された。



新型フレーム構造  
を導入した結果、  
機力下での運動  
性は同時代のMS  
を凌駕。MS開発  
現場に新たな活  
躍をもたらしすこ  
うになった。



主刃部となるビーム・サーベルは他のGPシリーズよりも高出力。しかもマニュアル操作によって出力の調整も可能となっている。



ドラム式フレームから伸びるサウザーで高加速運動を可能。機体では右側に大木ビーム・ライフルを、左側にミクスケーター粒子干涉破壊装置を内蔵する。



本機は機力下仕体だが、前後とオプション・パーツを換装することで高機にも対応可能となった。この仕様は「フルバーニオン」と呼ばれた。



アトミック・バズーカの代わりにも多用途ロケット・システム（MUS）を搭載したモデルも計画された。中距離攻撃機が役割と考えられる。



試作3号機との違いでフルバーナムを失ったコウツラキが直前、デラース・フリーが引を懸けた「嵐の戦」作戦の最中に参戦した。



本機の攻撃機「ガーベラ・テラ」は、デラース・フリーのシームレスとの政治的盟約によって製造され、シーム・ガラハワの機体となった。



ブッホ・ジャンク社の私兵部隊バーナムに所属する強化人間、クワンタン・フェルモが直前、本機はディターンズに配備予定だったとされる。



大型MAのコアとして用いられた機動兵器



拠点強襲を目的に試作された幻の機体



デクシス探索に投入された大型MA



# **機RX-78GP03S ガンダム試作3号機 スタイメン**

拠点防衛用として大火力を誇るデンドロビウムだが、MSとの接近戦では想定外の脆弱性を有することが発見。この事態を回避すべく、分属可能なMSを機軸中核として搭載する設計が追加された。この機軸が「スタイメン」である。アームドベースとドッキングしての運用が主となるがMS機体の性能も高く、機甲に強化されたゲル・バインダーは優れた機動性を発揮する。



本機は2機試作され、うち1機にはコア・プロテクションシステムが導入された。だが開発で失われたため、全天候用モニター機が追加された。



両腕から前方に伸びるゲル・バインダーが外見上の特徴。機軸部分を開閉し、本機の機動性を高められる。

# **機RX-78GP04G ガンダム試作4号機**

コードネーム「ガーベラ」ともつけられた本機はGPシリーズの4号機として運用されるはずだった。バックパックに搭載されたプロペラントタンクがスラスター（シュツルム・ブースター）で目的地に高速移動。推進剤を消費しきった直前でブースターを放棄し、自衛戦に移行する強襲仕様機として予定されていたのだ。しかし地帯戦のコンセプトが試作1号機と重複するために地球連邦軍からの発注が取り消され、開発が中断された。



ガーベラの開発データはAE社に漏洩されているらしい。ただし開発計画が中止されたことから開発するのとはめて停産である。



シームレスに塗装される機軸のガーベラ・テラ。ベース機のプロペラを運用しつつ、外周と後部バグを公開系に接続している。

# **機RX-78GX-01 クレヴェナール**

U.C.0079に地球連邦軍が試作したニュータイプ用MSアレックス。大望したこの機体は好成績の裏にブッホ・コンヴェルンに買収され、系列会社のブッホ・ジャンク社での改修後、コードネーム「トリスタン」として暮らす。クレヴェナールはトリスタンを中核ユニットとする大型MAで、設計コンセプトはデンドロビウムと類似している。そのため基盤設計や技術面での何らかの供与が考えられるが、詳細は不明である。



機軸両側に設置するウェポン・コンテナには、ミサイル、ミサイル・ポッド、大型クローといった射撃・格闘武器が詰められている。



クレヴェナールの中核ユニットとなったトリスタン。機軸部分にジャンクパーツで覆われ、機軸から機軸全体はほぼ露出だとされる。



# MSパイロット——コウ・ウラキ——

## 全貌を現した「星の屑」作戦に抵抗し ガンダム試作3号機を駆った若きパイロット

ウラキはガンダム試作1号機を駆り、地球連邦軍とジオン公国軍との戦争を戦うなかで、パイロットとしても人間としても大きく成長していった。コウの成長を促したのは、アナヘル・ガトーという宿敵の存在と、周囲の人間たちの支えであった。ガンダム試作2号機強奪事件で相みえたガトーに苦い敗北を喫したコウは、その屈辱をバネにパイロットとして前線を重ねた。その思いが強いばかりに周りが見えず、道を見失うこともあったが、ニナ・ハーバートンをは

しめとする周囲の人々に支えられて着実に成長していった。さらに、ルンギン公国軍パイロットのケリー・レスナーとの交流と決別や、1人でありながらもあったサウス・ハーグとの死別を経て、コウは戦士として逞しさを増していった。その結果、コンペイトウの親艦式を襲撃したガトーとの一騎討ちで、彼と角に渡り合うまでになる。たか、戦いはまた終わらず、コウはその渦中でも、念を試されることとなるのだった。



試験機への搭載機を前にコロニー落としを仕掛けたテラース・フリートの作戦に、前線の決戦を挑むコウ。運送する機体のなか、ガンダム試作3号機を襲って戦った。

## コウ・ウラキ Kou Uraki

### DATA

年齢: 19歳 所属: 地球連邦軍 階級: 少尉→中尉(機務階級) 出身: 地球 能力: MS操縦



コロニー落としを止めるためルセットと共に試作3号機を持ち出そうとするが、前線に戦況の急変を告げられてしまう。



試作3号機の特殊な機体特性を把握して理解して乗りこなす。アルビオン軍の先鋒をぶっ倒す大活躍を挙げたのだった。



AE社のノーマルスーツ。試作3号機を運搬しようとした際に着用した。

### ▶「星の屑」——コロニー落としを運るコウの奮戦

UC 0093 11 10、親艦式襲撃後のガンダム試作2号機を捕獲して一騎討ちに及んだコウは、相討ちの末に生還を果たした。たか、テラース・フリートの「星の屑」作戦はコロニー落としという企図を露にする。翌11日、アルビオンはAE社のトック艦上リアンローズに接近。コウはそこで試作3号機の開発に携わったルセット・オデビの誘いに乗り、同艦を強奪しようとした。その行方はナカバ・ナカト少佐に阻まれるも、強襲任務の解任を拒んだアルビオンが試作3号機を強引

に奪回し、コウはそのパイロットを任される。そして、12日にはスペース・コロニーを防御するテラース・フリートとの交戦に入り、ガトーのノイエ・シールとも激戦を繰り広げた。激戦及ばずコロニーが阻止限界点を突破したのちも戦線を継続したコウは、コロニー内部でガトーと邂逅した。たか、ノイエ・シールとの一騎討ちに勝つ。しかし決着がつかないままガトーは去り、コウは拭えない傷を刻まれたままテラース戦争の終わりを迎えたのだった。



戦争の戦線にカーと壮絶な一騎討ちを繰り広げるも、決戦を見ることはなかった。

戦後は軍事裁判で有罪判決を受けながら、戦犯として扱われる。しかし、アイオウ軍に赦免され、責任を









## コロニー落とし阻止に投入された大型MA

紆余曲折の末にてアルビオン隊に配備されたガンダム試作3号機は「デラース戦争」の最終局面においてその威威を振るうことになった

### 戦場の舞台となった宙域

アイランド・イース

ソーラ・システムⅡ

スペース・コロニー  
移動コース

地球

阻止限界点

### ラビアンローズ

AE（アナハイム・エレクトロニクス）社が保有する宇宙ドック艦。艦内の修理と補給が主任任務だが、異常力のサイズを誇るガンダム試作3号機の運用試験を担当した。

### アイランド・イース

アイランド・ブレイドとともに、デラース・フリートによって強奪されたスペース・コロニー。北米大陸の設置地帯に対するコロニー落としに使用された。

### 阻止限界点

コロニー落としの進行速度を確認するための重要ポイント。この地点を突破されると、スペース・コロニーの地球落下阻止は不可能になるとされる。

### ソーラ・システムⅡ

一年戦争に投入された主要攻撃兵器の改良版。数百万枚のミラーで太陽光を反射・収束させ、標的を焼灼する。

## 01 ガンダム開発計画、発動

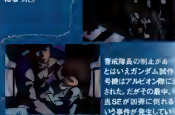
一年戦争終結後、部隊再編を図る地球連邦軍は「連邦軍再建計画」を実施。その一環として、ガンダムの名を冠する次世代試作機体の開発計画、通称「ガンダム開発計画」が立ち上がった。開発を担当するAE（アナハイム・エレクトロニクス）社はそれぞれ特長ある能力を有する4機（ガンダム試作1〜4号機／GPシリーズと呼ばれる）を試作。うちガンダム試作3号機は拠点防衛を担当する大型機として設計された。



ビグザムなどの大型MAに苦戦した連邦軍だけに、それに対抗する手段として、ガンダム試作3号機を必要とした。

## 02 アルビオン隊への引き渡し

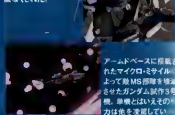
U.C.0083.10.04、月面都市フォン・ブラウンの機工所でロールアウトしたガンダム試作3号機は、同じドック艦ラビアンローズに移送。月や地球、コロニーから戦った宙域でテストが行われることになった。だが「星の屑」作戦阻止のために行動していたアルビオン隊が強奪に近い形で機体を強奪。以後、ガンダム試作3号機はアルビオン隊の管轄下になり、デラース・フリートとの交戦に投入されることになった。



警戒隊長の制止がなかったというガンダム試作3号機はアルビオン隊に強奪された。だがその直後、緊急SEが因習に割れるという事件が発生している。

## 03 デラース・フリートとの交戦

デラース・フリートによって地球落下軌道に入ったスペースコロニーを止めるべく、ガンダム試作3号機はデラース・フリート先発部隊と交戦した。戦場が使われたのはU.C.0083.11.12。多数のMS部隊を撃破して迎撃するのは容易ではないと思われたが、ガンダム試作3号機は搭載火薬の圧倒的な攻撃力によって甚大な被害を与えることに成功。だがその直後、MAノイエ・ジールの出現によって一時後退を余儀なくされた。



アムドベースに搭載されたマイクロ・ミサイルによって数MS部隊を破壊させたガンダム試作3号機。瞬間的な威力は他を凌駕している。

ザクHF2型 他

## 戦況の経緯

ガンダム試作2号機の強奪に端を発するデラース・フリートの「星の屑」作戦は、地球連邦軍機動隊への襲撃という大規模テロに発展。しかしそれすらも前哨戦に過ぎなかった。部隊を率いるエギーユ・デラースの目的はスペースノイドの地位向上と勢力の拡大であり、地球の食糧自給率を低下させることで宇宙からの輸入依存を増大。地球の存続にはスペースノイドが欠かせないことを知らしめようとしたのだ。だが作戦の一部を託されたシーマ・ガラハウが獅子身中の虫と化し、デラースを暗殺。地球落下コースに乗ったスペースコロニーを返って、混沌とした状況が生じてしまうのだ。

### U.C.0079

- 1月3日 一年戦争、勃発。
- シーマ、コロニーへの暴行注入作戦に参加。
- 12月24日 公国軍宇宙軍第301中隊、陥落。
- アナベル・ガトー、機動する友軍の囑（しんが）りを務め、連邦軍追撃部隊を撃退。以後、「ソノモンの夢」の異名を冠する。
- 12月31日 公国軍宇宙軍第1・バリオア・ク、陥落。
- 公国軍残党、ミナベを引き連れてアクシズに移動。
- シーマ、公国軍残党への合流を拒否され、地下に潜伏。海陸軍に身をよす。
- エギーユ・デラース、配下の艦隊と共に戦闘開始。

### U.C.0080

- 1月1日 一年戦争、終結。
- デラース、アクシズ行きを拒む公国軍残党を糾合、艦隊を再編成する。
- 3月 デラース、艦隊を暗黒宙域（旧サイド5）に移動。「星の屑」の設置、開始。

### U.C.0081

- 8月15日 デラース、デラース・フリートを名義し、「ジオン公国軍艦隊」を機に宇宙活動を開始。
- 9月17日 ガトー、デラース・フリートに合流。
- 10月13日 連邦軍再建計画が連邦議会でも可決。
- 10月20日 「ガンダム開発計画」が発動。
- デラース・フリート、アクシズとの交戦を開始。



### 阻止限界点を通る戦闘

小規模な戦いは戦ったものの各地の決戦手に欠けたままスペースコロニーは移動を続け、ついに阻止限界点の附近に接近した。このポイントを超えられればコロニーの落下を止める手段はもはやなく、ガンダム3号機はスペース・コロニーの破壊もしくは軌道変更を行うべく再度出陣。防衛線を展開するノイエ・ジールとの間で一進一退の攻防が繰り返された。だが決着がつかないまま、事態は予想もなかった展開を見せる。デラース・フリートにみよるシーマ艦隊の反旗を翻し、指揮官エギーユ・デラーズの身柄を拘束したのだ。さらにシーマ艦隊は連邦軍軍団（コロニー派）と混じっており、スペース・コロニー落下阻止の準備も整っていたのだ。

スペース・コロニーを拘束するデラース・フリート部隊を戦手に登場するガンダム試作3号機。エギーユの士気は高く、時間だけが経過してしまふ。



方、バス・フーモの連邦軍軌道艦隊は阻止限界点の付近に集結し、積極的な戦術を行なった。コロニー派に属する彼らは動揺がなかったからだ。

### ノイエ・ジール 他

### ガーベラ・テトラの狂攻

ガンダム試作3号機の奇襲も空しく、スペース・コロニーは阻止限界点を超え、しかし連邦軍は衛星軌道上に展開した戦術兵器ソーラシステムIIを使い、スペース・コロニーを焼灼した。超高温に晒されたスペース・コロニーは溶解・分解するかのと思われたが、ノイエ・ジールがシステムの制御盤を破壊したことで攻撃は中断。スペースコロニーは地球落下を続けることになった。一方、総動員をかけたデラースを射殺したシーマ艦隊指揮官シーマ・ガラハウがMSで出陣。コロニー派との交渉手段を失ったことへの怒りのままにガンダム試作3号機へ猛攻を仕掛けてきた。ノイエ・ジールとの戦戦で窮乏したガンダム試作3号機は苦戦を強いられる。

制御盤の破壊は機動性とビーム・マシンガンに連射性を確保する3号機のガーベラ・テトラに対しては、ガンダム試作3号機は戦術を重ねていく。



が接近し過ぎたガーベラ、ガンダム試作3号機は機体を旋回し、メガ・ミサイルの発射で敵機をなぎ倒し、鋭くゼロ距離からの砲撃でガーベラ・テトラを殲滅した。

### ガーベラ・テトラ 他

### 凶謀の決着

ソーラシステムIIが無力化されたことで最終的な軌道調整を終えたスペース・コロニーは止める手段はもはやなく、ガンダム試作3号機はアルビオンへの帰郷の途に就く。だがその目的にノイエ・ジールが立ちふさぐ。デラース・フリートの一員として任務を果たした今、ひとりの武人としてガンダム試作3号機との決着を望んだのだ。ガンダム試作3号機もそれに応じ、地球に落ちるスペース・コロニーを背景に決戦が開始された。互いに射撃兵器を失ったことから戦いは格闘にもつれど、背後を襲ったノイエ・ジールがガンダム試作3号機にどめを刺すとする。そこに眩い閃光が舞い上がった。作戦失敗の報復を唱へるべく、バスクが機体を回復したソーラシステムIIを照射したのだ。



ガンダム試作3号機とノイエ・ジールによる決戦は、MA両士の絶頂という珍しいものとなった。これまで見てきたように消滅していったにもかかわらず、両者は一歩も引くことしなかった。

## MS OTHER 戦記

### GPシリーズの技術的影響

デラース紛争を利用して反ジオン公国軍残党のプロパガンダを実施した地球連邦軍だけに戦況の真相が公になるのは望むところは薄い。関係する情報は印刷もしくは抹消された。紛争に投入されたGPシリーズもその影響を受け、機体と開発計画は公式記録から抹消されている。だがGPシリーズの開発に導入された技術や設計思想そのものは抹消を免れ、MS開発史上新たな潮流を生み出すことになった。そのひとつがムーバブル・フレーム。ガンダム試作1号機に採用された新規フレーム構造は優れた自由度によってMSの動きを人体に近づけることに成功した。このフレーム構造を改良したのがムーバブル・フレームだったのだ。グリプス戦役で一部の機体に導入されたムーバブル・フレームは急速に普及し、文字通り、MSの視野を支える技術となった。このようにGPシリーズの開発によって培われた技術は計画抹消後も継承されたのである。



ムーバブル・フレームを本地球連邦に採用した機体はガンダム Mk II。しかも試作機をエスコに改造されたことから、フレームに関する技術も流出している。

UC 0096、アグレス捜索に投入されたリズタン（クレーナール）にも技術的関連性が見受けられる。



その後、一層の熱を燃やしたノイエ・ジールがガンダム試作3号機の背後を移動。隠し胸を露出すると相手手を羽交い握ることでどめを刺すという。



そこにソーラシステムIIの照射が襲来。破壊は免れたものの、深刻なダメージを受けたノイエ・ジールは撤退。決着はつかずじまいに終わった。

### VF ノイエ・ジール 他

### U.C.0083

- ・1月 デラース・フリート、「ガンダム開発計画」を告知。
- ・7月30日 デラース・フリート、「星の屑」作戦、計画立案。
- ・10月13日 ガル、ガンダム試作2号機を盗取。
- ・10月31日 シーマ率いるシーマ艦隊、デラース・フリートに合流。
- シーマ、ガンダム試作1号機と交戦、大破させる。
- デラース、地球全域へ宣戦布告（デラース宣言）を実施。
- ・11月1日 第二次コロニー再生計画、実施。
- ・11月10日 デラース・フリート、連邦軍艦隊を襲撃。
- シーマ艦隊、輸送中のスペース・コロニー-2基を盗取。
- ・11月11日 1基のスペース・コロニーが地球落下軌道に入る。
- ・11月12日 コロニーの地球落下を巡る攻防戦、開始。
- ・11月13日 コロニー、北米大陸に落下。

### 「星の屑」が残したものと

アルビオン港やガンダム試作3号機の留め口にもかかわらず、スペース・コロニーは北米の穀倉地帯に落下。デラースの悲劇は成就したと思われる。だが連邦軍のタカ算を案する軍団（コロニー派）が事態を巧みに利用。公国軍残党の危険性を連邦政府と世論に訴え、機動隊を自衛とする特務部隊ティターンズを組織した。これによって地球と宇宙の対立は連邦軍内の派閥抗争にも発展。デラース紛争は終結したものの、新たな戦況の要因を生じさせている。

北米各地には落下するコロニーから分離したパーツが降り注ぎ、小室を中心とする農作物に深刻な被害が発生。デラースの狙いは成功したのだが、



コロニー-2の被害や食糧危機の責任は公国軍理問にあると主張するコロニー派によってティターンズが結成。反発するエーゴとの間に内紛が生じた。



地球連邦軍とAE社が推進した「ガンダム開発計画」は画期的な試作MS群を生み出したそのひとつに、合体機構によりMSとMAの機能を両立したガンダム試作3号機があった

### KEYWORD

#### ガンダム開発計画

一年戦争後、連邦軍再編計画の一環として推進されたMS開発計画。連邦軍と旧ジオン公國軍の技術融合によるMSの高性能化などが目的とされた

#### ガンダムタイプMS

計画には連邦軍のRX-78 ガンダムとその派生型や後継機にあたるハイエンドMS群。ガンダム試作2号機のように動態模倣がない機体も存在する。

#### AE(アナハイム・エレクトロニクス)社

地球圏最大の巨大複合企業。一年戦争終結後、旧ジオン公國軍機体共産開発企業の吸収合併などにより、MS開発技術を画期的に向上させた

#### RX-78GP00

##### ガンダム試作0号機

ガンダム開発計画。への参加決定に際し、AE社が独自に開発したMS。コア・フースター3によるコア・プロセスシステム、高動機ヒーム・ライフル、MPHWS・ミノスキー粒子干涉波探知装置などの野心的技術を搭載した。パイロットの負担が大きかった



#### RX-78-2

##### ガンダム

RX計画 V作戦で誕生したRXシリーズ主要3機種のうち、白兵戦用にあたる試作MS。公國軍の主力MS MS-06 ザクを圧倒する戦闘能力を実現しており、アムロ・レイ少尉の操縦によって歴大な戦果を残し、これにより伝説的なMSとして語り継がれている



増加装備による強化案



#### Gアーマー

ガンダムと支援メカの統合。航空機Gファイターが合体した長距離遠征機。ガンダムを半格闘状態で防御しつつ長距離高速移動が可能となす。戦闘中の合体や分離にも対応する。MSと航空機が合体する発想はガンダム試作3号機に、影響を与えることとなった



# RX-78GP01

## ガンダム試作1号機

ガンダム開発計画で試作された。ガンダム連系の発展型コア・プロ・ウンステムの合体方式を見直し、ほかのもののムーバフル・フレームにつながる技術やオプティム機装による仕込み変更機体などが盛り込まれた。試作1号機自体は陸地用の仕様である。



# RX-78GP01-Fb

## ガンダム試作1号機フルバーニアン

ガンダム試作1号機の宇宙仕様。本来の宇宙仕様はコア・ファイターの機装で実現されるはず。だが、フルバーニアンは試作1号機の修理にともなう大規模改修で完成した。新装備のユー・ハーサル・フーストボルトにより、突出した機動性を持つ。至。



汎用特化

宇宙仕様

核攻撃  
特化

# RX-78GP02A

## ガンダム試作2号機

ガンダム開発計画で試作された。核兵器運用MS。開発は旧ネオニッパ社の強固を中心とするチームが担当した。核使用時の耐衝撃性を考慮してコア・プロ・ウンステムは採用せず。耐熱、冷却用のノールト放射線遮蔽材を充填した装甲などを備えている。



強襲特化

機体改造

# RX-78GP04G

## ガンダム試作4号機

ガンダム開発計画の発展。白兵戦用MS。試作2号機と同じ部室が開発した。ニューノルム・フースターにより爆発的な加速性を有するが、試作1号機とコ・センセツが重視したため、連邦軍の指定から外れてしまった。開発自体は、AE社の判断で独自に進められた。



# AGX-04 ガーベラ・テトラ

ガンダム試作4号機を改修した強襲用MS。フレームまで完成していた試作4号機に、ネオンの外装を施している。ロールアウト時はノインアイと2本のアンテナなどを有した。ガンダム的な顔ぶれだったが、シーラ艦隊に譲渡する際にモ・ノアイ式への重要。アンテナの機体となされた。

拠点防衛特化



## RX-78GP03 ガンダム試作3号機

遠近防衛用として開発された「ガンダム開発計画」最大の機動兵器。MA的を中用機動兵器形式最高のアームドベース「オーキス」に、機体全体の制御を司るMSステイメンが合体しており、MSとMAの機動を合わせ持つ。最大全長140mの巨体に、メガ・ビーム砲、種々の兵器を搭載可能なウェポン・コンテナ、1フィールド・ジェネレーター、超高出力推進機などを備え、超絶的な戦闘能力を有する。開発は試作1号機と同じ開発系の部署が担当した。

機構を参考に  
独自開発

**RX-78GP03S  
ガンダム試作3号機  
ステイメン(Pスペック)**  
コア・ブロック・システムを採用した仕様のステイメン コア・ファイターは便宜上コア・ファイターⅡ-Spと呼ばれ、試作1号機用に近しいスペックという。(Pスペック)自体の基本機能は通常のステイメンとはほぼ同じだが、ソーマ艦隊との戦闘で失われている

管制  
システム

## RX-78GP03S ガンダム試作3号機 ステイメン

オーキスと合体し、その管制を担うコア・ユニット 試作3号機全体のコントロールだけでなく、オーキスが苦手とする近接格闘戦、オーキスの損傷修理、緊急時の脱出システムなどを担う。MSとしても高性能であり、フルバーニアンに迫る空間戦闘能力を発揮する。

別仕様

## RX-78KU-01 クレヴェナール

RX-78AN-01 ガンダムAN-01・タンとアームドベースが合体した機体。フ・ホ・コンパイルの秘密部隊バーナムが装備しており、その開発には試作3号機のデータが用いられたと見られる。ウェポン・コンテナにはミサイル・ホトや遠隔ミーム兵器などを搭載



発展

MSZ-010  
ZZガンダム

「Z計画」で開発された第四世代MS。コア・ブロック・システムと変形・合体機構。ハイ・メガ・キャノンに代表される大火力。バイオセンサーなどを備え「最強のガンダム」とも称された。コンセプト的には試作3号機をコンパクト化した機体と考えていたという。



フルアーマー化

FA-010S  
フルアーマー  
ZZガンダム

ZZガンダムを改良したMSZ-010S 強化型ZZガンダムに、重砲式の複合増加装備を搭載した機体。ただでさえ高い火力をさらに増大したうえ、ZZガンダムの問題だった変形・合体機構による耐久面の脆弱性を解決している。増加装備をバリエーションすれば変形や分離も可能。



発展

FXA-05D+RX-178  
スーパーガンダム

ガンダム Mk-II と G ディフェンサーが合体した状態。合体にともなう増加装備により、火力、耐弾性、機動性などガンダム Mk-II のあらゆる性能を向上させた。G フライヤーと呼ばれる高速巡航形態は G アーマーに近い性能特性を持っており、可変 MS 級の運用性を実現した。



合体・強化

RX-178  
ガンダム Mk-II

ティターンズがアースノイドの技術者のみで開発した試作 MS で、ガンダム直系の後継機にあたる。ティターンズでの評価は高くなかったが、柔軟性に秀でる最初期型のムーバブル・フレームは AE 社で注目を集め、のちの「Z計画」に大きな影響を与えることとなった。



## FXA-05D Gディフェンサー

AE 社が開発した汎用 MS 支援総動機。G ファイターの影響が顕著な機体であり、ガンダム Mk-II との合体機構を備えている (MSA-003 ネモや RGM-66R ジムⅡとも合体可能とされる)。スーパーガンダム形態では、コックピット周辺がコア・ファイターとして離脱する。

G アーマーを始祖とするドッカブル (合体) 機動兵器は、異分野の兵器同士を併存・融合させる一手段で、試作3号機もその流れのなかにある。大半の MS に対応するサブ・フライ・システムや、MS と MA の機能を切り換え可能な可変機の登場でドッカブル機の存在意義はなくなってきたが、その後も機格外の機動兵器の開発手段として用いられた。

NZ-998  
ネオ・ジオング











## ミサイル

戦国末期以来、対地・対空・対艦といった用途に弾道弾をはじめとする「ミサイル」などで劇的な発展を見せた誘導兵器「ミサイル」。第二次大戦でその軍事利用にとどまらず、追跡性能が著しく低下したものの、補助兵器として広く使われ続けている。







## 新戦術の前に弱体化した 自己推進式誘導弾

いわゆる「ミサイル」は、自律飛行能力と誘導・追尾機能を有する兵器である。それまでの兵器は発射後の弾道修正が不可能だったが、ミサイルは様々な誘導・追尾機能によってそれを可能としており、第二次世界大戦以後、加速度的な発展を見た。水上艦艇を目標とする対艦ミサイル、地上車輛への攻撃を前提とした対地ミサイル、航空目標を攻撃する対空ミサイルなどが開発され、様々なプラットフォームで運用されるに至った。戦略兵器の大陸間弾道弾が誕生したのも、この時期である。

宇宙世紀に入ると宇宙での運用に対応するモデルが多用されるようになり、対宇宙艦艇用や対宇宙要塞用も登場している。誘導装置や機動装置の高性能多機能化も進み、宇宙・大気圏内両用、対空・対地両用といった多用途ミサイルが配備されたのだった。

だが、ミノフスキー粒子の軍事利用が始まると、電磁波や精密機器に依存するミサイルは誘導・追尾機能の大半を封じられ、長距離からの精密誘導が困難となってしまう。結果、ミサイルは宇宙艦艇の主兵器ではなく、補助兵装の面目を失っていった。



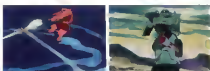
## 機動兵器MSの登場とミサイルの変化

そもそもMSとミサイルの相性はいいとはいえない。ミノフスキー粒子散布環境下での有視界戦闘を前提に開発されたMSと、視界外へのアウトレンジ攻撃を想定したミサイルでは相容れない部分が多いのは当然である。ミノフスキー粒子の影響を受けにくい赤外線誘導や有線誘導の知見・離ミサイルならMSとの相性は悪くないように思えるが、シーカーが有効になるまでの最小射程の存在、バズーカをはじめとするMS用携行兵器に対する優位性の欠如といった問題がある。

こうして運用状況を遊ぶ兵器となったミサイルだが、局地戦用MSの登場がMSとの結びつきを強めていく。慣性誘導による長距離弾道攻撃、水陸両用MSの内装式多用途火器などとして高い評価を得たのである。その後、宇宙用MSや大気圏内外両用MSでも多連装形式などでの搭載例が散見されるようになり、第一次ネオ・ジオン戦争期には大半のMSが補助兵器として装備するに至った。

## MS用「ミサイル類」の分類と性能傾向

ミノフスキー粒子の軍事利用にともないミサイルの誘導・追尾性能が極端に低下したこともあり、ロケット(弾)やグレネードといった兵器との垣根が曖昧になった(本稿ではこれらの兵器を「ミサイル類」と総称する)。ミサイル類はMSでの搭載例があり、推進器や誘導・追尾装置の有無で分類可能となっている。



粒子濃度や防弾装置によっては誘導・追尾は可能だが、MSに撃墜される可能性もある。MS用の有効射程は平時も兵装と大量がないこともある。

### ■通常環境でのミサイル



ミノフスキー粒子が散布されていない環境では、誘導なども可能となるため、高い命中確率を誇る。

### ■ミノフスキー粒子環境下でのミサイル

ミノフスキー粒子散布環境下では、誘導や追尾性能が大幅に低下するため、命中も中々も悪化する。



### ■ミサイル類の性能傾向

	推進器	射撃	誘導装置	M粒子下での誘導	補記
ミサイル(有線)	搭載	短～長	搭載 (内蔵、外部操作)	×	自動追尾、または発射母機などからの誘導で目標を追尾する。ミノフスキー粒子の影響下では命中精度が極端に低下。発射母機と結ばれたミサイル、発射母機から有線誘導されるため射程は長い。ミノフスキー粒子の影響を受けにくい弾頭と推進器がなる無誘導射撃兵器。長射程にできるが命中精度が比較的低く、多連装化されることも多い。発射直後から出た誘導弾、多くは爆発式で、主に補助兵器として使用される。
ミサイル(無線)	搭載	短	搭載 (有線誘導)	○	
ロケット弾	搭載	中～長	非搭載 (純に誘導)	×	
グレネード	非搭載	短	非搭載 (純に誘導)	×	

### ■ミサイル(有線)

無線誘導式の自己推進兵器。ロケットエンジン、レーザー、赤外線、光学映像、それらの複合などで目標に誘導される。



### ■ミサイル(有線)

発射母機から有線誘導されるミサイル。射程は無線式に劣るものの粒子環境下でも有効である。MSでの採用例は少ない。



### ■ロケット弾

誘導・追尾装置を備えないロケット推進弾。いわゆる「バズーカ」以外では、瞬間最大火力重視の多連装式が目立つ。



### ■グレネード

推進器を備えず、発射直後から出た誘導弾。手榴弾タイプのハンド・グレネードにも発射薬を有するモデルがある。



### サイズと弾頭

ミサイル類のおおよその用途は、サイズと弾頭によって判断できる。小型(マイクロ)ミサイルは多連装化による短距離広域攻撃用、中型ミサイルは弾頭の多連装による中距離・汎用、大型ミサイルは単発での火力や射程に優れた長距離・対艦。対MS用といった傾向で、特に大型には核弾頭を搭載可能なモデルもある。



アックス(ネオンジオン)のMSでは武器の焼結共通化の一環として、MS用ミサイルを大型のHクラスと小型のSクラスに区分していた。

### ■サイズ

MS用ミサイルは小型、中型、大型の3種に大別可能だ。なかでも全長が短い小型はMS用として誕生したと見られ、数十発単位で装備される例もある。



### ■サイズ

弾頭は榴弾、指向性爆弾、成形炸薬弾、多弾頭、数弾など多岐にわたる。スタークジェガン用や艦艇用などでは核弾頭の装備も可能であった。



RGM-89S  
プロトスタークジェガン

## TECHNOLOGY INFO

### 宇宙艦艇のミサイル

U.C.0070年代、サラミス級やムサイ級といった以後の宇宙艦艇の直接的原型となるメガ粒子砲搭載艦が登場した。これらの艦艇はミサイルも搭載するが補助兵器に過ぎず、初期の宇宙艦艇戦では多用されなかったようだ。だが一年戦争末期にビーム機互換が使用されるようになった。要艦戦を中心にミサイルが多用されたのだった。



宇宙艦艇用のミサイルは粒子散布環境下でも使いやすい慣性誘導式のような。短時間で大量のミサイルを発射するため迎撃もされにくかった。

### カイラム級機動兵器



艦首に8門のミサイルランチャーを備え、通常のミサイルと超ミサイルを発射可能。超ミサイルの運用例もあった。

### ムサイ級超遠洋艦



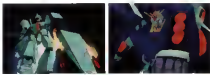
史上初のMS運用艦のムサイ級は、小型ミサイルと大型ミサイル(145mmミサイル)を搭載。小型は10連装、大型は2連装。

史上初のMS運用艦のムサイ級は、小型ミサイルと大型ミサイル(145mmミサイル)を搭載。小型は10連装、大型は2連装。



## MS用ミサイルの搭載方式

MSにおけるミサイル類の搭載方式は、機体内への内蔵がポッド・ランチャー形式の外装が一般的で、U.C0090年代にはシールドへの搭載例が目立って増加した。手持ち式がわずかなのは、腕部にはビーム・ライフルやマシンガンなどの主兵装を装備し、補助兵装として機体各部にミサイル類を搭載する例が多いためだろう。



水陸両用MSや支援用MSなどの例外を除けば、ミノフスキー粒子環境に適するビーム・ライフルやビーム・サーベルに干渉しないよう搭載

## ■MSへの内蔵

MS本体に内蔵するタイプ。胴体や腕部に内蔵する例が多い。使用時のみ発射器のハッチを開発するのが一般的だが、水陸両用MSを中心とした局地戦用MSでは先端部が常時露出する例もある。が低い。



サンネックの胸部ミサイルランチャー。非使用時は閉鎖され誘爆の危険性が常時露出する例もある。が低い。

## ■機体外への露出

ミサイルを機体外に露出搭載するタイプ。機体内やポッドに内蔵閉鎖型大型ミサイルを装備する際に用いられるが採用例は少ない。MSとの連結基部はパラボラ式の小型ランチャーと考えていい。



PBX-001 パラスアステ

## ■複合増加装備一体型

いわゆる「フルアーマー・オペレーション」に代表される複合増加装備に内蔵されたタイプ。フルアーマーでは機体のほぼ全体にミサイル類を搭載できるため、火力を大幅に増強可能である。



FA-0105 フルアーマーZZガンダム

## ■外装ポッド・ランチャー

ポッド・ランチャー形式で機外にオプション装備するタイプ。通常、各ポッド・ランチャーに複数発のミサイル類が搭載される。バージ可能のため、使用後にデブウェイトになりにくい。



ザグZ1型用の胸部3連装ミサイル・ポッド。脚部にミサイルと接続される。

## ■シールドへの搭載

シールドにランチャーを内蔵、または裏面に直接搭載するタイプ。シールドの本来の耐弾性は低下するものの、MS本体の機能を損なわず射界が広い。U.C0090年代のMSで特に採用例が多かった。



Vガンダム用のシールド裏面に4基のミサイルを直接搭載していた。

## ■手持ち

銃把付きのランチャーとして腕部に外装するタイプ。大型ミサイル類を多連装化しやすい利点があるが、ミサイル自体がミノフスキー粒子環境での運用性に差があるため数は少なかった。



陸戦型ガンダム用のミサイルランチャー。最大12基のミサイルを複数搭載可能であった。

## MSの仕様とミサイル類の位置付け

前述のように、MSにとってのミサイル類は補助的な兵装に過ぎず、ビーム・ライフルに代表される主兵装との併用や使い分けによって効果的な運用が可能となる。もっともMSの仕様によってはミサイル類への依存度が変化し、支援用MS、水陸両用MS、第一次ネオ・ジオン戦争期を中心とした火力重視のMSにおいては重きが置かれる傾向にあった。



RGM-89J ジェガンJ型

## ■汎用MS(主力MS)

「白兵戦用機動歩兵」の機能を重視した汎用MSはミサイル類への依存度が低く、補助兵装にとどまる。まったく搭載していない機体も珍しくない。



AMX-102 ササ

## ■支援用MS

支援用MSや支援機の性格を持つMSのなかには、多数のミサイル類を搭載する機体がある。ミサイル弾薬による瞬間最大火力を重視していた。



MSM-07 スコープ

## ■水陸両用MS

水中運用の都合上、滑らかな機体形状を持つ水陸両用MSでは、内蔵式のミサイル類が重視される傾向にあり、ビーム兵器と使い分けられた。



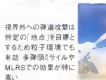
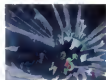
AMX-014 ドープ・ブルー

## ■火力重視のMS

第四世代MSを含む第一次ネオ・ジオン戦争期のMSは火力重視の傾向にあり、大型ミサイルや連装ミサイルを装備。数十基搭載のMSも珍しくない。

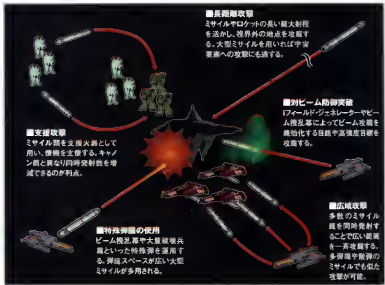
## MSにおけるミサイル類の運用

ミノフスキー粒子散布環境下での戦術では、大半の兵装が光学距離可能な範囲内でのみ使用される。これはミサイル類も同じで、慣性誘導の弾道攻撃以外は目標を直接見た状態で発射する。単純ミサイルは基本的に「ファイア・アンド・フォークト(撃ち放し)」であるため攻撃直後に次の行動に移れるものの、目標の射程内内で発射させるを得ない点は変わらない。このためミサイル類の運用は、火力や装弾数に依存したものにしやすい傾向がある。



視界外への弾道攻撃は特定の「地点」や目標とするため粒子環境でも有効。多弾頭ミサイルやMLRSでの効果が特に高い。

多数のミサイル類を装備したMSは一斉発射による面制圧力や瞬間最大火力に優れる。手持ち兵装があれば戦術も可能である。



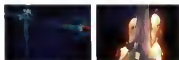


## MSに見るミサイル類搭載数の変化

下の表は主力MSを中心としたミサイル類搭載数の推移を表している。一年戦争からグリプス戦役にかけて搭載例が極めて少なかったが、第一次ネオ・ジオン戦争で急増し、「シャアの反乱」期には搭載数こそ減少したものの標準装備化されたのがわかる。

にともなうミサイルの弱体化(無誘導ロケット化)、発射機構と光学式追尾の発達による開発の活性化という流れがあった。第一次ネオ・ジオン戦争期の火力重視傾向も少なからぬ影響を与えている。

実装密度の問題から第二期MSでは搭載例が多くないが、地上用MSや高級機で増加していった。



第一次ネオ・ジオン戦争はMS用ミサイル類の全盛期。直後に制式化されたジェガンは補助武装として標準装備した。

時期	機体名	標準装備ミサイル	オプション装備ミサイル
一年戦争	MS-06F ザクⅡF型	なし	なし
	MS-06J ザクⅡJ型	なし	腰部3連装ミサイル・ポッド
	MS-09R リック・ドム	なし	なし
	MS-14A グルプグ	なし	胸部3連装ミサイル・ランチャー他
	RGM-79 ジム	なし	なし
	AMX-003 ガザC	なし	なし
	RMS-179(RGM-79R) ジムⅡ	なし	なし
グリプス戦役	RMS-106 ハイザック	なし	腰部ミサイル・ポッド(6連装)
	RMS-117 ガルバルディβ	ミサイル×2(シールド内蔵)	なし
	MSA-003 ネモ	なし	なし
	RMS-108 マラサイ	なし	なし(腰部が有存在とも)
	RMS-154 バーザム	なし	なし
	RMS-141 ゼク・アイン	なし	ミサイル・ポッド(3連装×4)
	AMX-006 ガザD	8連装ミサイル・ポッド×2 ミサイル・ランチャー×2(共にシールド内蔵)	なし
第一次 ネオ・ジオン戦争	AMX-008 ガ・ソウム	9連装ミサイル・ランチャー×2	なし
	AMX-101 ガルスJ	ミサイル・ポッド×2(胸部)	なし
	AMX-107 パウ	グレネード・ランチャー×2(前装) 3連装ミサイル×2(肩下)	なし
	AMX-014 ドーベン・ウルフ	バインダー部12連装ミサイル・ランチャー×2 対艦用大型ミサイル×2 脇下グレネード連射ランチャー×2	なし
	RGM-86R ジムⅢ	なし	胸部オプション・ミサイル・ポッド×2(小型15連装ミサイル、または中型4連装3段ミサイル) 腰部高性能2連装ミサイル・ランチャー×2
	AMS-119 ギラドーガ	グレネード・ランチャー×4(シールド部)	なし
	RGM-89 ジェガン	2連装ミサイル・ランチャー×2(シールド内蔵) (腰部ハンド・グレネード×3)	なし
「シャアの反乱」	AMS-129 ギラ・ズール	なし	なし
	RGM-89D ジェガンの型	シールド(2連装ミサイル・ランチャー×2) (ハンド・グレネード・腰部×3)	なし(5型など後装バリエーションによる)
	RGM-89A2 ジェガンA2型	シールド(4連装ミサイル・ランチャー×2) (ハンド・グレネード・腰部×3)	なし
	RGZ-95 リゼル	グレネード・ランチャー×2(前装)	なし
	RGM-89J ジェガンJ型	2連装ミサイル・ランチャー×2(シールド内蔵) 腰部3連装グレネード・ランチャー	なし
	RGM-109 ヘビーガン	腰部4連装グレネード・ランチャー×2	なし
	XM-01 デナン・ゾン	なし	なし
コスモバトロニア 連合戦争	XM-02 デナン・ゲ	腰部3連装グレネード・ラック	なし
	RGM-119 ジェムズガン	なし	なし
	RGM-122 ジャベリン	なし	なし
	ZM-S06S ソロアット	なし	なし
	ZM-S08G ソロ	ミサイル・ポッド×2(肩下)	対地爆撃コンテナ
ザンスカール戦争			



## 数十基ものミサイル類を 装備する機動兵器群

「P28」の表を見てもわかるように、第一次ネオ・ジオン戦争期を除けば、主力MSのミサイル類搭載数は、桁が人半を占めている。ミサイル類が補助兵器に位置付けられていることが、因に、機動兵器のなかには数十基の搭載数を誇る機体も存在する。

そうした機動兵器の大半は汎用の主力MSとは異なるコンセプトで開発されており、第四世代MSをはじめとする第二次ネオ・ジオン戦争期のMSだけでなく、年戦争時には既に存在した。その多くは火力重視傾向にある機体だが、ズサール・シムⅢといったミサイル類を支援兵器として搭載した機体も当然ある。

MAの部にも当てはまる機体があった。ジオン公国軍のMA-05 Adヒグ・ラングは、ミサイル・ランチャー8基と3連装人型対空ミサイル2基を備えており、1基の30連装のビーム複合弾発射筒を加えれば134基ものミサイル類を搭載していた。変わったところでは25基もの大型ミサイルを備えるMA-06R ヒグ・ワフがあり、ミサイルの1基は全長100mを超える人型ミサイルとなっていた。

## TECHNOLOGY INFO

### 航宙・航空機と地上車輛のミサイル類

戦場におけるミサイル類の散布が常態化しても、航宙・航空機や地上車輛にとって最強の兵器はミサイル類であり続けた。メガ粒子砲を搭載可能な機体が限定されるため、結果的にミサイル類が生み出された形である。この傾向は一年戦争以後に登場した新鋭機も同じだが、任務上、ヒュー兵器を必要としない点も要因であった。

### 航宙・航空機

一年戦争開始前に開発された航宙・航空機はレーダーや電子機器への依存度が高く、ミサイルの運用プラットフォームとなっていた。

MS開発の過程で開発されたF-FX7 コア・ファイターでも、最大の火力を有する兵器はミサイルであった。

### 地上車輛

口徑数百mmの戦車砲を備える主力戦車を除けば、ミサイルを搭載した車輛だけがMSに対抗可能な火力を有していた。

メガ粒子砲環境に対応する有線ミサイルの採用が目立つが、車体そのものは脆弱であった。

### 代表的な多連装ミサイル類搭載機

下の機動兵器は、ミサイル類の搭載数が多い機体の一部である。なお、ミサイル類の搭載数は発射口の数や同一プラットフォーム上の配置数を合計したもので、装弾数ではない点に注意した。また、例えはシムⅢの腹部オプション・ミサイル・ポットは2〜4射分のミサイルを搭載しているが、本項では未カウントである。

#### YMS-15 キャン

搭載数:60



シート・第二ノード・ミサイル  
・バリエーション・ポットを含めた搭載  
数は60



#### AMX-102 スサ

搭載数:60



腹部3連装ミサイル×2、  
胸部3連装ミサイル×2、  
大脚部3連装ミサイル×2、  
脚部10連装ミサイル×2機



#### RTX-440 陸戦強襲型ガンタンク

搭載数:50



56連装ミサイル・ランチャー  
MLRS  
※2連装のMLRSは別数不  
明の多弾頭



#### RGM-86R ギルⅢ

搭載数:34



※(肩甲骨オプション)ミサイル・  
ポット×2、胸部高性能2連ミ  
サイル・ランチャー×2、  
※胸部オプションミサイル・  
ポットに小径15連装ミサイルを  
識別した場合



#### RX-78GP03 ガンダム試作3号機

搭載数:222



マイクロミサイル・コンテナ×2、大型重集ミサイル・セット×2  
※マイクロミサイル・コンテナはミサイルは108連装×2、大型重  
集ミサイル・セットのミサイルは3連装×2



#### AMX-014 ドベンクルフ

搭載数:20



バインダー部12連装ミサイル・  
ランチャー×2、対艦用大型ミ  
サイル×2、脚部グレネード・  
ランチャー×2



#### PMX-001 パラサ・アネ

搭載数:40



大型ミサイル×8、  
シート部小型ミ  
サイル×40



#### FA-010S フルアーマーZZガンダム

搭載数:92



背部18連装2段組ミサイル・ランチャー×2、  
胸部5連装ミサイル・ポット、胸部5連  
装スプレッドミサイル・ランチャー  
※胸部5連装ミサイル・ポットを1基のみ搭載の場合、FA-010A  
FAZZと同じく胸部ミサイルが識別されているため、搭載数は56



#### MSZ-010 ZZガンダム

搭載数:42



胸部21連装ミサイル・ランチャー  
×2



#### RX-0 フルアーマー ユニコーンガンダム

搭載数:30



※対艦ミサイル・ランチャー(3  
連)×2、ハンド・グレネード(3  
連)×8  
※右腕部のグレネード・ラン  
チャー2門は除く



ミサイル10基、ミサイル1基



# コロニー落とし

地球や月にスペース・コロニーを落下させる「コロニー落とし」は核兵器をも上回る破壊力を有し、地球環境の变化すら招きかねない戦略爆撃である。一年戦争以来、度々実施され地球を滅ぼしかけたことすらあった。





## 大量破壊兵器すら上回る 史上最悪の巨大質量弾攻撃

コロニーそのものを巨大質量弾＝コロニー爆弾とし、地球や月に落とさせる戦略爆撃の一種が「コロニー落し」である。人体衝突を人為的に発生させる戦術であり、直径64km、全長10kmクラスのコロニーを落とさせた際の破壊力は熱核兵器をも凌駕した。史上初のコロニー落しと目撃された「ブリティッシュ作戦」では、ジオン公国軍によって軌道を外れたサイド2-8パンチ、アイランド・フィッシュが地球に落とされ、TNT火薬換算で6万メガトン（ヒロシマ型原子爆弾の約300万発分）のエネルギーが解放された。この結果、コロニー前半部分が着陸したオーストラリア東岸に直径500kmのクレーターが形成されたうえ、地球の自転速度が毎時1.2秒加速されたといわれている。

なお「シアの反乱」でネオ・ジオンが実施した「小惑星落し（闇有落し）」は質量弾として小惑星を利用したが、コロニー落しの一種として解説している。

## コロニー落しのプロセス

コロニー落しとは、巨大かつ大質量のコロニーを目標天体に落下させることで着陸地点とその周囲に超核兵器級の壊滅的被害を与える。だが、コロニーはラグランジュ・ポイントに固定された状態で地球の周囲を公転している。そこでコロニーを安定軌道から脱走させたうえで、落下軌道を修正しつつ目標に向かわせる必要がある。



質量弾にコロニーが選ばれたのは、巨大な質量を持つうえ、規格化された形状が大量突入後の軌道安定に寄与することが理由となっている。

### ■コロニー落しの際程

本図は、一週間の戦争におけるジオン公国軍の「ブリティッシュ作戦」を元に、コロニー落しとを解説する。コロニー落しとは、大きく①コロニーの確保・加工、②軌道の変更、③加速、④着陸の4つの段階から構成されている。

#### ①コロニー、地球へと着落

固定着陸点を突破したコロニーは、地球へと着落。着陸地点だけでなく、周辺地域にも大きな被害を与える。

#### ②コロニー、地球へ向けに加速

月を利用したスイングバイによって加速したコロニーは地球に向けて移動。この時点で軌道変更は可能だが、阻止要員点を突破すると地球への着落は不可避となる。

#### ③コロニーの確保・加工

ラグランジュ・ポイントにあるコロニーを確保さらにブースターなどを取り付け移動させる

#### ④コロニーの軌道を変更する

ブースターなどで推進力を持ったコロニーは安定軌道を外れ、月の引力に引かれて移動する。

Illustration by TOKIO YUZAWA (From Band)

## TECHNOLOGY INFO

### 宇宙世紀のNBC兵器

コロニー落しなどの大量破壊兵器・戦術が登場した宇宙世紀に入っても、NBC兵器（Nuclear＝核、Bio＝生物、Chemical＝化学）の研究開発や運用は行われた。生物兵器はジオン公国軍の環境破壊兵器「アスタロス」程度しか知られていないが、ザンスカール戦争では宇宙細菌「エンジェル・コール」が軍事利用されたという。

### 核兵器

一年戦争勃発まで宇宙艦艇・航空機・MSによる核兵器の運用は途切れなかったが南極条約で禁止された。ただし核兵器の保有は禁止されず、戦後の運用例もあった。



自己南極地帯爆弾 Mk-42 核弾頭 戦術核として登録されたが威力は戦術級。MSでは核バズーカ（アトム・バズーカ）または核ミサイルで運用される。

### 化学兵器

一般に「毒ガス」として知られる化学兵器も南極条約で禁止されたが、空間環境のコロニー内で絶大な効果を発揮するためコロニー用として度々使用された。



ブリティッシュ作戦でもコロニー駆逐のためGG（ダブルジー）ガスが使用された。



## コロニー落しの利点と欠点

天体衝突を人為的に引き起こすコロニー落しは、対惑星・対衛星の戦略爆撃としては破格の威力を持つのが最大の利点である。だが、着陸までのシークエンスが長いのも阻止される機会が多く、軍事的には大きな問題となる。政治面ではアースノイド、スペースノイドの双方から批判の対象になるため使いどころが難しい。



コロニーの確保時と着陸時に民間人を中心とした無差別な人命が失われることから人道上的問題が大きく、戦争犯罪に関与する可能性もある。

### メリット

#### ■核兵器以上の破壊力

コロニー落しの破壊力は史上最大といわれている。ジオン公国軍が地球降参軍本部ジャブローへのコロニー落しを企図したのも、地下施設ゆえに正確な位置と規模が不明なうえ、核攻撃でも破壊困難だったためとされている。

#### ■高度な奇襲性

一週間戦争時のブリティッシュ作戦は史上初のコロニー落しであり、コロニー自体を対地球用の質量弾とする奇抜な発想から、奇襲性が極めて高かった。だがコロニー落しの戦術が周知されると奇襲性は大きく低下した。

#### ■質量弾の確保の容易さ

一年戦争で多数の無人コロニーや産業コロニーが生み出れる。質量弾の調達も容易となった。グリプス戦役と第一次ネオ・ジオン戦争でコロニー落しに使用された質量弾は、設置されていた新サイド4のコロニーだった。

### デメリット

#### ■阻止作戦に対する脆弱性

時間がかかるため阻止作戦を立案しやすい。安定軌道からの脱走に成功しても、コロニー爆弾の着陸や軌道の強制変更などにより、目標地点を逃れる可能性が無視できない。このためコロニー防衛に大規模な兵力が必要となる。

#### ■推進剤の入手困難性

コロニーの軌道変更や移動に用いる超大推力推進剤（植バルス・エンジンなど）および燃料の入手が、非正規軍や小規模組織では難しい。推進剤と燃料をそろえようと、点火に必要なエネルギーを賄えないこともある。

#### ■政治的批判

あまりに大きな人命の損失と環境破壊は、政治的批判の対象にならざるを得ない。コロニーの喪失は防衛作戦内容とは、そこを居住地とするスペースノイドの反響を招きやすいが、小惑星による代用で緩和可能だった。



## 『敗者の戦術』とも揶揄される コロニー落としの低成功率

一週間戦争におけるコロニー落としは、シドニーを中心とするオーストラリア大陸の15%を水没させたと。太平洋沿岸を襲った津波や高波、台風以上の暴風雨、舞い上がった土塵による気象異常などを引き起こした。これによる死者・行方不明者は2億人に達したとまでいわれ、アースノイドが経験した史上最悪の災害となったのだ。

実際、コロニー落としにともなう被害は大きいのだが、意外にも成功率は高くない。宇宙世紀史上、コロニー落とし(小惑星落としも含む)作戦は8回確認されているが、目標地点に着落したのは3件に過ぎず、目標以外の場所に着落した例が2件、天体衝突に事ななかった例が3件となっている。作戦に多くの戦力と時間を費やしたにもかかわらず、成功率は50%にも満たないのである。

また、コロニー落としを実施した組織は作戦の成否にかかわらず短期間で撤退しており、戦術面のみならず政治的にも有効なオプションではないと考えていいだろう。

## コロニー落としの阻止手段

前述のように、質量弾の確保から着落までに長い時間を要するコロニー落としは成功率が低い。これは各プロセスでコロニーの軌道を変更せられる危険性が存在するため、公国軍すら二度のブリティッシュ作戦に失敗している。この点はコロニー落としをしをける側も研究しており、様々な奇策や政治的駆け引きなどを駆使した。

### 1 質量弾化作業の阻止

質量弾化以前のコロニーの防衛、コロニー制圧艦に行われる質量弾への改修の阻止などにより、コロニーの安定軌道からの逸脱を防ぐ。ルウム戦役でのコロニー落としは、後者の方法で阻止された。



作戦の開始が早い場合のみ有効。商業コロニーを利用した作戦は事前情報も少なく、この段階での阻止は困難。

### 2 移動用推進器の点火阻止・破壊

核パルス・エンジンなどの移動用推進器を使用させることで、落下軌道に乗せない方法。推進器の点火を阻止するか推進器を破壊する。「シアアの反乱」時のアクシズ落下阻止で実施された。



落下軌道に入っていないければ推進器の破壊が有効。ローベール降は機体サイズでアクシズの推進器の破壊を狙った。

### 3 軌道変更装置の強制点火

軌道変更用に設置された推進器を強制的に点火することで、再進路を変更する。あまり早い段階で点火すると、修正正れてしまうため、機体の落下地点の変更には使えない(着落は回避できない)。



ユーゴが月面都市クワンタラのコロニー落としと阻止で実施。コロニーはグラダを逃れ、対外に落下した。

### 4 質量弾の破壊

質量弾そのものを破壊する。完全破壊できずとも軌道を変える効果はあるが、分断による被害の軽減が見込める。一週間戦争のコロニー爆弾は、連邦軍による攻撃もあって空中分解しつつ落下した。



テラス紛争ではノーランシステムIで攻撃。「シアアの反乱」のアクシズ落下阻止では内部から分断した。

### 5 直接攻撃による軌道変更

核クラスの大出力兵器を用いた攻撃で、質量弾の軌道を変更する。軌道変更用推進器の強制点火と併用すれば、艦隊射撃でも軌道変更が期待できる。グリプス戦役でユーゴが二度実施している。



クワンタラの落下軌道に乗ったアクシズを、ユーゴがコロニーレーザーで狙撃。一撃で軌道を変更した。

### 6 内部操作による軌道変更

コロニーや推進器付き小惑星は内部に設けられた制御室からの操作で、軌道を変更できる可能性がある。アイランド・フィッシュの住民が盗聴されたのは、これを恐れていたことともいわれる。



制御室から軌道修正できるのは、作戦を実施する側も同じ。テラス紛争ではこの手段で最終決戦を行った。

## TECHNOLOGY INFO

### コロニーの軍事利用

コロニー落とし以外にも、コロニーの軍事利用は行われている。コロニー爆弾同様、コロニーを軍事利用するアイデアとしてソーラレイ(コロニーレーザー)があるが、もともと一般的なのはコロニーの基地化である。なお大半のコロニーには駐留部隊が存在するが、港湾の一部を提供している程度で「基地化」はされていない。

### 基地化

コロニー内に軍事拠点を設けたもの、基地として建設されたコロニーは少なく、民間区域の一部を司令部などの軍事施設に転用した。サターン11センチなどが該当する。



### 軍事工業化

MSや宇宙艦艇などを開発、生産する工場が建設されたコロニー。上述の基地機能をあわせ持つ例も多く、サターン11センチ(ズムシティ)や(グリプス)が該当する。



### コロニーレーザー砲

コロニーを巨大な戦術艦レーザー砲に改造したもの。公国軍のソーラレイに改造された(マハル)、ティターンズがコロニーレーザー砲とした(グリプス2)が有名だ。



## TECHNOLOGY INFO

### 宇宙での巨大質量弾攻撃

#### モグラ叩き作戦

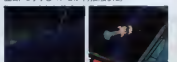
U.C.0088.01.18、ユーゴ・アクシズ連合軍は、ティターンズの宇宙拠点「ザダンの門」(旧ア・バオ・ウー)に小惑星基地アクシズを衝突させた。結果「ザダンの門」は破壊された。



小惑星基地同士を衝突させる初めての作戦。「ザダンの門」は接合部から分断され、基地機能を失った。

#### コア3沖海戦

U.C.0089.01.16、ネオ・ジオン内戦においてグレミー軍が投射した小惑星基地アクシズと居住区モウサが、ハマーン軍の拠点「コア3」に接触。翌日、モウサとコア3が再接触した。



初弾のモウサ、第二弾のアクシズとの接触で別個したコア3は、翌日のモウサとの再接触で破壊した。

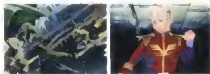


## 8回も繰り返されたコロニー落とし

前ページで記述した通り、コロニー落としは未遂を含めて8回が確認されている。「のうし」シリーズ組織が実施したものは7回で、3回は小惑星を兵器として使用した。U.C.0100年代以降の実施例は知られておらず、クロスボーン・ハンカートやヘスバは有効な戦術と考えられたためである。

なお、比較的小規模な対地球質量弾攻撃は度々

計画され、以て国軍が地球侵襲作戦の初期段階として「実戦」で月面マストライバーから岩塊発射「ニュー・サイズ」による巨大MA AMA-100「ノクターン」のダール降下、米連合軍の審判のメイズ作戦、オールズモビルが火星のオリンポス山に建設した「オリンポス・キャンセル」による惑星間質量弾攻撃、米連合軍などがあつた。



戦争のためのコロニー落としはジオン公国軍とティターンズしか実施しておらず、ほかにはプロバガンダ、示威、環境破壊などが目的だった。

## ■コロニー落としと着陸地点

### ■ダブリンへのコロニー落とし

ネオ・ジオンがダブリンにコロニーを落とし、壊滅させた。

### ■地球寒冷化作戦①：5thルナ落とし

「地球寒冷化作戦」の第一弾。ネオ・ジオンが計画した。

### ■「星の屑」作戦

テラース・フリートのプロバガンダ的作戦。北米に落着いた。

### ■ブリティッシュ作戦（一週間戦争）

公国軍がジャブローを狙うも落下中に空中分解。原型を保った前半部分が着陸した。

### ■ブリティッシュ作戦（ルウム戦役）

公国軍が再びジャブロー攻撃を企てるも、連邦軍艦隊の妨害によって断念。

### ■グラナダへのコロニー落とし

ティターンズがグラナダを襲撃し、落下軌道に乗せた。しかしコロニーは空中分解し、作戦は失敗した。

### ■グラナダへのアックスズ落とし

アックスズがアックスズをグラナダへの落下軌道に乗せたが失敗している。

### ■地球寒冷化作戦②：アックスズ落とし

「地球寒冷化作戦」の最終段階。アックスズの地球侵襲に失敗に終わった。

## ■U.C.0079.01.04～10

### ブリティッシュ作戦（一週間戦争）

シャブローの壊滅を企てた公国軍が、サイド2のアイランド・イフィッシュをコロニーへ帰還し、地球への落下軌道に乗せた。しかしコロニーは空中分解し、作戦は失敗した。



空中分解したコロニーの前半部分は豪州東岸へ、残りは北米などに落下した。

## ■U.C.0079.01.15

### ブリティッシュ作戦（ルウム戦役）

2度目のブリティッシュ作戦を企てた公国軍は、サイド5のアイランド・フトホートのコロニーへ帰還し、地球への落下軌道に乗せた。連邦軍の攻撃を受けて断念。敵艦隊自体は公国軍が勝利している。



ブリティッシュ作戦は連邦軍の戦力をおびき出すための偽情報だったとも

## ■U.C.0083.11.10～13

### 「星の屑」作戦

テラース・フリートが北米数箇地帯へのコロニー落としを計画。月へのコロニー落としを誘ったもの。コロニーを地球に向けた。裏切りと連邦軍の迎撃を受けたものの作戦は成功した。



目標はジャブローと思われたが北米に落ち、プロバガンダ的作戦だったという。

## ■U.C.0087.08.24

### グラナダへのコロニー落とし

新サイト4の廃棄コロニーを確保したティターンズが、エウゴの根拠地グラナダに向けてコロニー落とし作戦を展開するも反響を受けて失敗。廃棄で実施されなかった例だった。



コロニーはグラナダから180km離れた月面に落着き、士官の脱出で実行された。

## ■U.C.0088.02

### グラナダへのアックスズ落とし

旧公国残党アックスズが、自らの拠点である小惑星基地アックスズをグラナダへの落下軌道に乗せた。エウゴはコロニーレーザーで小惑星基地アックスズを狙撃、落下軌道から外した。



史上初の小惑星落とし作戦。コロニーレーザーで軌道を変更した珍しい例

## ■U.C.0088.10.28～31

### ダブリンへのコロニー落とし

ネオ・ジオン（ハマーン）が旧サイド4のコロニーを占拠すると、ダブリンに落下させた。連邦政府・軍はこれを察知していたが対策をとらず。コロニーはダブリンに落下した。



目的は反対勢力への示威、連邦政府高官を眼前にダブリンを襲撃していた

## ■U.C.0093.03.04

### 地球寒冷化作戦①：5thルナ落とし

地球環境の破壊によるアースノイドの増殖と宇宙移民の安全化を目指すネオ・ジオン（シャア）は、「地球寒冷化作戦」の一環として小惑星5thルナをチヘットのラサに投下した。



5thルナの核パルス・エンジンを動かすのは、連邦政府から入手したという。

## ■U.C.0093.03.12

### 地球寒冷化作戦②：アックスズ落とし

地球の汚染を完全化するため、連邦政府が管理するアックスズと核を奪い、地球への落下軌道へ。しかしコン・ドベル隊の阻止作戦の末、サイコフィールドにより地球から離脱した。



連邦の先頭隊はサイコフィールドに包まればアックスズは地球から離れていた。



# GUNPLA Generation

ガンブラ ジェネレーション

## vol.3! RX-78GP03

### ガンダム試作3号機

武装と推進器を備える超巨大なアームドベース・オーキスを装着した途端、MSではなくMAに見えてしまう特異なガンダム試作3号機。それゆえにガンブラ史においても別格過ぎた機体といえよう。

#### 悩ましい問題を抱えたメカニクスデザイン

ガンダム GP01 宇宙仕様（フルバニーアン）から1/144ギンダムシリーズのフォーマットが大きく見直されたため、1/144 ガンダム GP03S（1992年5月発売／価格1,000円・税別）の内容はかなり充実しており、フォルディング・アーム展開アクションもパーツ差し替え式で再現するなど、ノーマルの1/144シリーズとしてはかなりの良作キットであった。

その後、2001年7月には1/550 ハイグレードメカニクス=HGメカニクスとしてガンダム GP03 デンドロビウム（価格1,500円・税別）が製品化されるが、機体設定があまりにも巨大なうえ、アームドベース・オーキスと並列可能なステイメンはほぼ無可動状態。デンドロビウムの複雑なメカニクスを堪能するにはやはりサイズが小さすぎたといえる。

1/144スケールのガンダム GP03Sは、ノーマル仕様だと考えるとなかなかの好キット。



1/550スケールではその魅力を再現するのが難しかったガンダム GP03 デンドロビウム。



1/550 デンドロビウムに付属した同スケールのガベラ・テトラは、うれしい配慮。

ガンダム・シリーズの長寿化に尽力してきたバンダイ製ガンブラ、その進化の過程を機体ごとに紐解いてみる。

いまから17年前に生じたひとつの伝説  
「全長1,000mm」の1/144ガンブラ誕生

ガンダム試作3号機 ステイメン単体での第2弾キットとなったのは、2001年4月発売の1/100 マスターグレードモデル=MG（価格3,500円・税別）。ギミックやディテールが徹底的に設定された新規描き下ろしデザインのコア・ファイターが付属し、変形後の同機はコックピット・ブロック及びバックパックとして胴体と結合する。前腕部フォールディング・アームやサーベル・ラック展開ギミックなども忠実に再現されており「さすがはMG」と称するに値する内容であった。

ガンブラ専用コア・ファイターのデザインが描き起こされた1/100 MG、非常に豪華なケースである。



そして、そこがわずかに8ヶ月後に、1/144 ハイグレードユニバーサルセンチュリー=HGUCとして同機が製品化されることに（価格1,600円・税別）。アームドベース・オーキスとのドッキングを想定したギミックがほぼすべて可動式で再現されており、「[MGの簡易廉価版]的な内容に「ちょっとやりすぎでは？」と感じた人もいたかと思うが、その理由はわずか数ヶ月後に判明する。

誰もが「……それはあり得ないだろう！」と驚かされる事態と化したわけだが、1/144

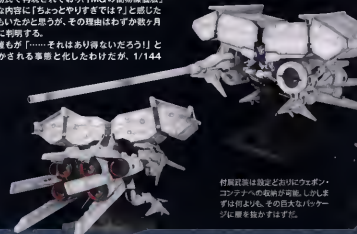
1/144 HGUCには非常形式ディスプレイモデルのコア・ファイターも付属。真に充実した内容といえる。



HGUCで、ガンダム 試作3号機 デンドロビウムがリリースされるに至ったのだ（2002年3月発売／価格28,000円・税別）。

全長1,000mmという超巨大サイズのモデルを成立させるため、5種類のビス計89個とスプリング・パーツ6つが付属し、さらに、自重崩壊を生じさせないための鉄板までもメインサート。結果、デンドロビウムとしての可動ギミックがほぼ完璧に再現されるに至ったのみならず、ステイメンに至っては先にリリースされたHGUCキットをそのまま転用した結果、ガンブラマニアはこのときになって「……なるほど、HGUC ステイメンの過剰なまでの可動ギミックは、アームドベース・オーキスを装着するための下準備だったのか！」とようやく気付かされることとなったわけだ。

いまからすでに17年前の話であるが、これはまちがいでなく「ガンブラ伝説」のひとつであったといえよう。



付属武装は設定通りにウェポン・コンテナへの収納が可能。しかもずり何よりも、その巨大なバックパックに腰を抜かすはずだ。



## お知らせ

諸般の事情により「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」は、しばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。次号、第32号の発売は12月10日(火)です。

## ダブルオーライザー

支援機オーライザーと合体することで  
ツインドライブシステムの安定稼働に成功したMS。  
ガンダムを超えた存在として世界に変革をもたらす。

お買い得なく安心! 毎月日をメールでお知らせします! (ご購読の方)

**発売日お知らせメール**

<https://daogostint.jp/oshirase/gms/>



- 戦場レポート  
つながる魂たち
- MS機体最新  
機体解説 武装解説
- 機体MSライティング  
ダブルオーライザーと  
関連機体
- MSパイロット  
刹那・F・セイエイと周辺人物
- MS機記  
ダブルオーライザー 戦闘の記録
- MS進化論  
ダブルオーライザー 開発系図

- メカニクス・ジャーナル  
CB (ソレスタルビーイング)  
GN 粒子とGNドライブ  
イノベーター
- ガンプラ シェネレーション  
緩やかなラインと可動性の  
両立に成功!

第32号

12月10日(火)発売  
定価: 本体639円 + 税

※地域によって発売日が異なる場合があります  
※マガジンの内容が変更となる場合があります

ツインドライブシステムがもたらす機能と特異な現象を徹底検証!

ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!

通常価格

**1,230円**

(税別)

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌約10冊分を収納できます。

※別冊でもご購入いただけます。

取扱いに便利な  
ステッカー  
付き!



好評  
発売中

バック  
ナンバー  
ご案内



26 ヤクト・ドーガ



27 アレックス



28 シナング



29 ジョング



30 ZZガンダム